



アルミ押出型材の繊細なスクリーン



西側昭和通りより望む。



西側全景



YKK80ビル

選評

企業の創業八〇周年の節目に際して建設されたYKK80ビルは、グローバル企業グループの拠点にふさわしい信頼性の象徴であり、これからの発展を牽引するための機能性・創発性を備えたオフィスであり、長寿命ビルのモデルとなるものである。最高高さを四〇層以下に抑えたビルは、都市の中で親しみやすいスケールであるが、ビル内外において企業の抛り所である高いクオリティをアピールした。たとえば、西側の大きな面を構成する、アルミ押出型材を用いた外壁のスクリーンは、穏やかに視界を遮り、内部にも外部にも、すがすがしさを感じさせる仕上がりとなった。押出型材はエントランス吹き抜けでもドラマティックに用いられ、訪ねる人に一貫性のある印象を残す。YKKAPの主力製品を直接用いたものだが、スマートにデザインがまとめられ

ている。

ビルの縦動線は三方所に分散され、目的に添って使い分けられている。階構成は、主たるオフィス（ワークプレイス）階と、地下階と上部階に設けた、さまざまな用途に応じるミーティングフロアに大別される。ワークプレイスはフロアあたり約一、八〇〇平方メートル、縦動線の分散と、随所に置かれたコミュニケーションを誘発するスペースが、自然な人の出会い・集中と弛緩のリズムを生み出している。木のぬくもりを感じるカフェテリア階は可変性に富むものであり、総じて本社ビルらしい明確な意図に基づき、これからの働き方について十分に練り込みがなされたオフィスである。

構造は、非常時における企業のBCP・地域の帰宅困難者支援を意識し、基礎免震が採用されている。ここでは、交通量の多い敷地であるだけに、外周擁壁逆打ち工法、一階先行床構築によるセミ逆打ち工法、地上ハーフPC床版のスライド工法の採用などによって、無駄のない、安全な施工手順が計

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中工道具館新館 敦賀駅交流施設「オルパーク」駅前広場キャノピー TSURUMI子どもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコムーゼタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞]日本橋ダイヤビルディング「江戸橋倉庫ビル」の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館

建築主 より

YKKの企業精神『善の巡環』を建物に表す

YKK80ビルは、50年以上本社を構えてきた秋葉原に、グローバルな事業を展開する会社の拠点としてふさわしい建物にするべく計画され、2010年秋にスタートしましたが、東日本大震災で一旦計画を練り直しました。当初から地震や浸水に耐えられる建物を考えてはいたものの、それを一層進化させ企業精神や理念を表現できる建物にしていきたいのです。

平時には地域との融合、調和、そして長く環

境にコミットしていける高性能、省資源な建物を、非常時には近隣被災者の支援とBCPを両立できる建物にしたいと考えました。

その思いに関係者の皆様が丸となってチャレンジしてくださったお蔭で、創業80年の記念となる社屋が完成しました。主要設備や免震層交換までのビルディングライフサイクルを考慮した120年続くサステナブルな建物で、地域と共に発展していきたいと思っています。



YKK不動産株式会社
代表取締役社長
吉田忠裕
Tadabiro Yoshida

設計者 より

都市における社会環境のストックをつくる



株式会社日建設計
代表取締役社長
亀井忠夫
Tadao Kamei

YKK80ビルは、1963年より本社を構えていた秋葉原の神田和泉町に、創業80周年の節目にYKKグループの新たな拠点として計画されました。グローバル企業の拠点として、機能性・信頼性・快適性・環境に配慮し、かつ長寿命な建築を追求するとともに、街にとっての佇まいを考えました。

断面が20mm程度の華奢なアルミ押出型材で構成した西側のファサードは、西日をコントロールするとともに、内部からの景観をフィルタリングする役目を果たしています。このアルミの

クリーンが、多くの中小ビルがひしめく街並みに対して、1枚の大きなファブリックを広げたようなソフトな表現となり、街並みに対して新たな視覚的喧騒をつくることなく存在感を示しています。LEED-CSにおいてオフィスビルとしては日本初となる最高ランクのプラチナ認証を取得しました。放射冷暖房+微気流による空調など、オフィスの快適性を高める取組みをしています。一般オフィスビルに比べ、ビル運用時に63%のエネルギー削減を、快適性を犠牲にすることなく厳しい都市環境の中で実現しています。

施工者 より

本社ビルとして末長くご利用いただけることを願って

当工事は2013年に着工し、北陸新幹線開業に合わせた竣工だったため、大変厳しい工期でした。また首都高速が走る人通りの多い昭和通り沿いの現場でもあり、常に安全に気を配りながら工事を行いました。

外周擁壁の逆打ち、1階先行床の構築、地上ハーフPC床版の採用と、施工合理化工法を駆使し工期短縮に努めるとともに、LEEDにおける最高評価レベルのプラチナ認証取得のため、

半径800km圏内で採取・加工された材料の利用や特定化学成分を含む建築資材の不使用、産廃の削減等を徹底しました。こうした課題を乗り越え建物を無事完成出来たことは、建築主、設計者、施工者が一体となって工事に取り組んだ成果に他なりません。

秋葉原東部地区のシンボルとして、YKK80ビルが100年、120年とご利用いただけることを願っております。



鹿島建設株式会社
東京建築支店
所長(当時)
高橋 亘
Wataru Takahashi



エントランスホール



上/事務室から屋上庭園まで続く階段
右/明るく開放的なワークスペース



画されている。高い環境性能は、グローバルな評価を得ることを目標とし、LEEDのプラチナ認証を目指し実現した。ワークプレイスにおける放

射空調とデシカント空調と微気流の組み合わせ、基礎免震空間を利用したクールヒートトレンチによる地中熱利用により、国内の一般のオフィスビルに比べて約六〇%

のエネルギー削減を達成している。加えて、施工時の廃棄物削減など、建築主・設計者・施工者一体となった努力が結実している。昭和通りに面して植えた日本在来種・園芸種の樹木と草花、また屋上の緑化もそのメニューに加えられる。なお、運用面では、ビル内カフェや隣接するものづくり館を常時地域に開放するなど、YKKは地域と共に歩む企業としての姿勢を示している。隅々まで、明確な意図を宿した建築と言えよう。

【選考委員】
竹内徹・佐野吉彦・田中隆吉

計画概要

建築主：YKK不動産(株)

設計者：(株)日建設計

施工者：鹿島建設(株)
戸田建設(株)
大和ハウス工業(株)
(株)大林組

所在地：東京都千代田区神田和泉町1
竣工日：2015年6月12日

敷地面積：2,640㎡
建築面積：1,875㎡
延床面積：20,919㎡

階数：地上10階、地下2階、塔屋2階
構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造、
鉄骨鉄筋コンクリート造